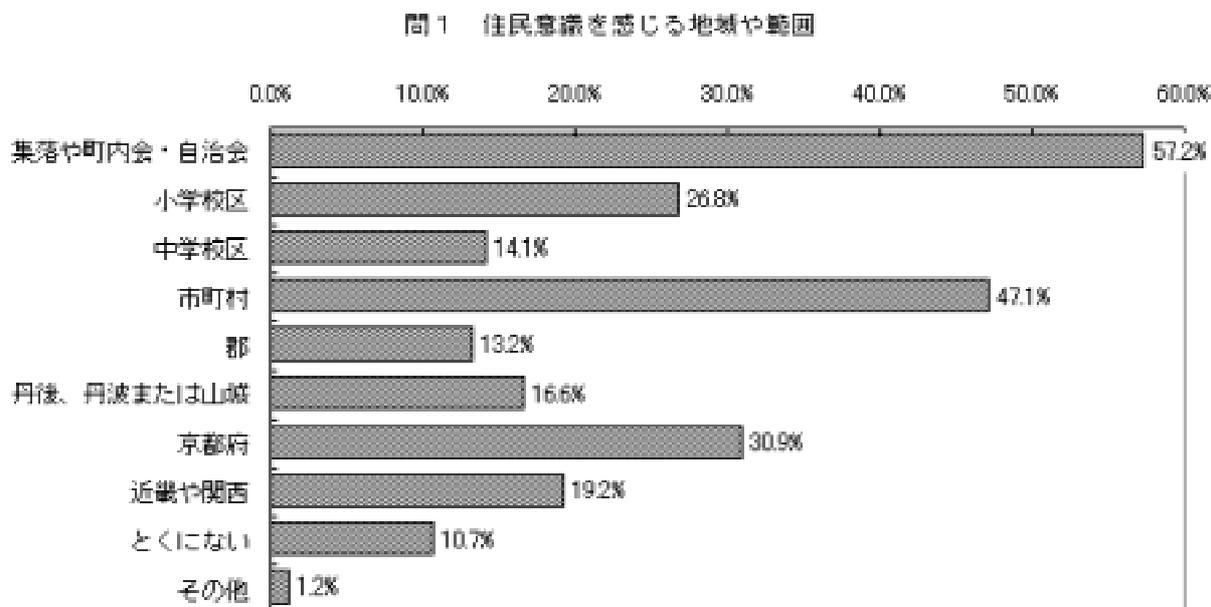


2 調査結果

日々の暮らしについて

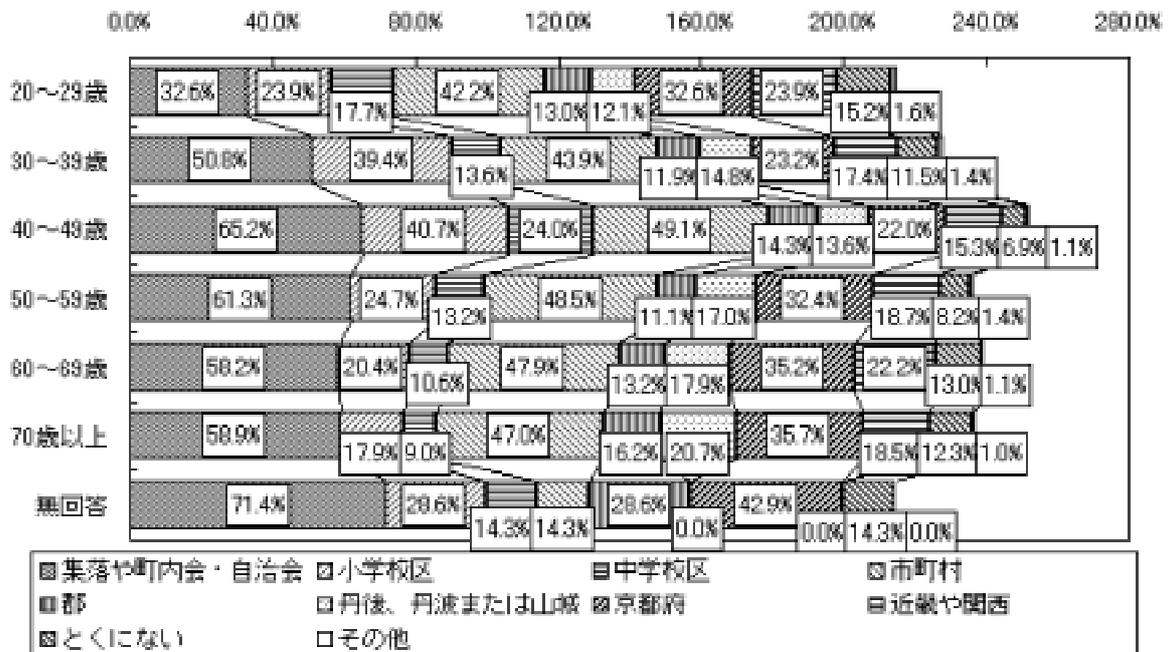
問1 あなたは、どのような地域や範囲に対して、住民意識を感じますか。あてはまるものすべての番号に をつけてください。

住民意識をどのような地域や範囲に感じるかをたずねたところ、「集落や町内会・自治会」(57.2%)が最も多く、次いで「市町村」(47.1%)、「京都府」(30.9%)、「小学校区」(26.8%)となっており、最も身近な生活範囲や府、市町村などの行政区域に住民意識を感じる人が多いといえる。一方、「中学校区」(14.1%)、「郡」(13.2%)に対する住民意識は、やや低い。



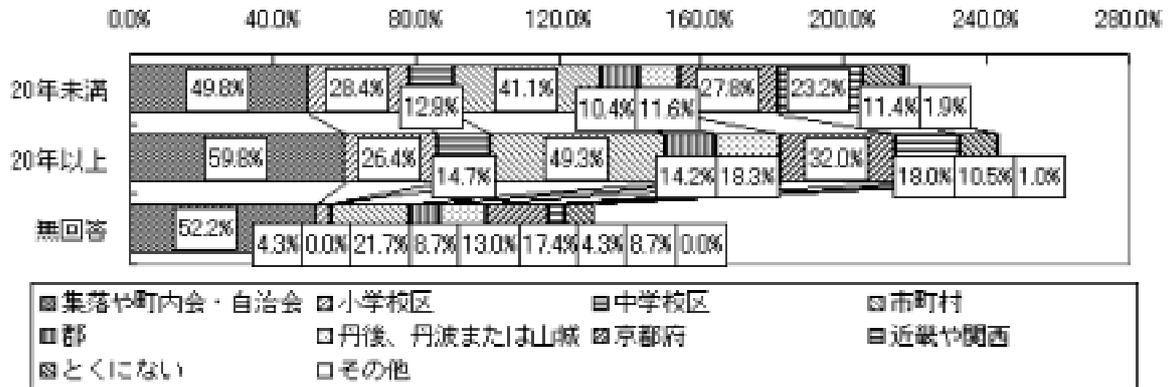
年齢別にみると、「20～29歳」では「市町村」(42.2%)が最も多いのに対し、その他の年代では「集落や町内会・自治会」が50%以上を占め、そのなかでもとくに「40～49歳」(65.2%)が最も高い比率となっている。

問1 年齢別 住民意識を感じる地域や範囲



居住年数別にみると、「集落や町内会・自治会」が「20年以上」では59.8%、「20年未満」では49.8%となっているが、「小学校区」については、「20年以上」では26.4%、「20年未満」では28.4%となっている。

問1 居住年数別 住民意識を感じる地域や範囲



問2 あなたが日常生活のなかで、最も出かけることが多い市町村はどこですか。以下の目的等ごとに具体的な市町村の名前を1つご記入ください。このような行動をなさらない場合は「なし」とご記入ください。

日常生活のなかで最も出かけることが多い市町村を10の目的別にたずねたところ、以下のような結果となっている。なお、各目的別の移動とその割合を表したモデル(地図)は、P.18～P.27を参照。

(1) 買物(食料品)

食料品の買物は、自市町村内で行われている割合が50%以上の市町村が24あり、住まいの近くで行われているものが多い。

他市町村への移動についてみると、北部地域の夜久野町や久美浜町では兵庫県へ、南部地域の大山崎町や八幡市では大阪府へ、相楽地域では奈良県や三重県へ買物に出かける傾向がみられる。これらの地域では、この項目に関する生活圏が他府県に対しても広がりをもっている。

(2) 買物(衣服)

衣服の買物は、自市町村内で行われている割合が50%未満の市町村が多く、他市町へ出かけている傾向がみられる。

主な移動の傾向としては、丹後地域では峰山町や宮津市へ、中丹地域では福知山市や綾部市へ、中部地域では亀岡市や京都市へ出かける傾向がみられる。一方、南部地域では京都市、大阪府、奈良県への移動が大きく3分しており、他府県の都市へ出かける傾向もみられる。

(3) 休日の外食

休日の外食は、全体として自市町村内で行われている割合が10%未満の市町村が多いほか、「なし」や無回答の占める割合がやや高い町村が多い。

そのなかで、丹後地域では峰山町や宮津市へ、中丹地域では福知山市へ、中部地域では亀岡市や京都市へ出かける傾向がみられる。また、乙訓地域、山城中部地域では、京都市、相楽地域では、奈良県や三重県へ出かける傾向がみられ、この項目に関する生活圏は他府県に対しても広がりを持っている。

(4) 行楽・レジャー

行楽・レジャーは、中丹地域から中部地域にかけては京都市へ出かける市町が多いのに対し、乙訓地域、山城中部地域は京都市、大阪府、滋賀県へ、相楽地域は京都市、大阪府、奈良県に分散して出かけているが、全体としては、京都市へ出かける方が最も多い。

なお、全市町村とも自市町村内での移動は10%未満が大半を占めているが、また、「なし」や無回答の割合が多いため、他市町への移動が全体として10~30%にとどまっている。

(5) 映画・コンサート等

丹後地域では峰山町へ、中丹地域では福知山市へ、中部地域では京都市へ出かける傾向が多くみられる。また、乙訓地域、山城中部地域では、京都市や大阪府へ出かける傾向がみられ、相楽地域では、大阪府や奈良県へ出かける傾向が多くみられる。これは、映画館やコンサートホール等の施設が立地している地域への移動が必然的に多い結果となっている。

なお、映画・コンサート等は、「なし」や無回答が占める割合が高いため、他市町への移動が全体として10~30%未満となっている。

(6) かかりつけ医院

かかりつけ医院は、住まいに身近なところで必要とする事情を反映して、各市町村とも自市町村内での行動が中心となり、他市町村へ出かけるケースは少ない。

他市町村へ出かけるケースについてみると、丹後地域では岩滝町へ、中丹地域では福知山市や綾部市へ、中部地域では亀岡市や八木町、京都市への移動がみられる。また、乙訓地域では長岡京市へ、山城中部地域では宇治市や大阪府へ、相楽地域では木津町や奈良県、三重県への移動がみられる。

(7) 総合病院

総合病院は、地域の拠点となるような大規模病院が立地していたり病院が多く立地している地域への移動が集中する傾向がみられる。

丹後地域では岩滝町、峰山町、弥栄町に加え、兵庫県へ出かける傾向がみられ、中丹地域では福知山市や綾部市へ、中部地域では八木町、日吉町、京都市へ出かける傾向がみられる。また、乙訓地域、山城中部地域では京都市や宇治市へ、相楽地域では木津町や奈良県へ出かける傾向が多くみられる。

(8) スポーツ

スポーツは、各市町村とも自市町村内での行動が中心で、他市町村へ出かけることが少ない。

(9) 教養・文化

教養・文化は、自市町村内での行動が中心であるほか、関連する施設等が充実している都市への移動が集中する傾向がみられる。

丹後地域では峰山町へ、中丹地域では福知山市へ出かける傾向がみられるほかは、中部地域や南部地域では京都市へ出かける傾向が多くみられる。

(10) 図書館

図書館は、ほぼ全市町村で自市町村内での行動にとどまっており、他市町村へ出かけるという行動は少ない。

(1) 買物 (食料品)



(2) 買物 (衣服)



(4) 行楽・レジャー



(8) スポーツ



(9) 教養・文化



(10) 図書館



問3 あなたは、1年間におおよそ何回くらいお住まいの市町村役場へ行きますか。また、その目的はどのようなものですか。役場へ行かれる回数と、その目的を具体的にご記入ください。

市町村役場へ1年間に何回くらい出かけるかをたずねたところ、「1回」(17.9%)が最も多く、次いで「2回」(17.5%)、「3回」(14.2%)となっており、「行かない」(15.1%)を加えると6割を超える府民において、市町村役場へ出かける回数が年3回以下にとどまることがわかる。

その目的は、大半が住民票や印鑑証明の取得、年金や保険料の支払い、納税等の行政手続で、児童福祉や高齢者福祉、地域での活動等に関する相談なども多くみられる。

また、回数が多い方の目的は、自治会等地域の役員等として役場との連絡等が多くみられる。

市町村役場へ行く目的は、自由記述のため数量的な集計は行っていない。

問3 1年間に市町村役場へ行く回数

